

其	令	生	國	挂	仁	崇	
未	生	賜	中	纏	謹	祭	
農	賜	比	爾	文	敬	奉	祖
血	比	孫	生	畏	恐	雷	神
道	玄	乎	座	伎	畏	天	祭
仍	孫	令	天	天	且	祖	詞
永	遠	生	與	祖	伏	能	
續	令	賜	利	能	底	神	
天	生	比	以	大	祭	等	
當	賜	曾	降	御	詞	農	
代	比	孫	子	神	言	太	
爾	尚	遠	遠	此	久	前	



母	登	天	氣	遠	仁	爾	我
我	茂	波	半	令	多	及	祖
乎	不	烏	父	勅	雷	我	父
懷	有	羽	我	賜	父	母	耳
我	我	玉	遠	計	母	仁	及
遠	頂	農	養	武	我	及	我
顧	頭	夜	我	御	遠	今	祖
復	遠	登	乎	心	生	耶	母
志	拊	多	育	乎	賜	我	爾
夜	賜	仁	我	令	互	耳	及
波	計	無	遠	勞	尊	楚	我
終	武	晝	愛	賜	身	及	父

夜	波	遠	乳	母	是	欲	空
腹	須	裳	遠	能	乎	等	仍
裡	汚	登	咽	惠	覺	雖	彌
仁	遠	爲	天	農	天	裳	遠
志	裳	賜	父	深	恩	仰	仁
天	穢	波	能	遠	惠	婆	際
寐	登	須	恩	不	遠	高	母
乎	爲	其	農	知	報	久	不
安	賜	血	高	漸	奉	堅	有
居	波	道	遠	長	良	農	荒
爲	須	仍	不	來	牟	天	金
賜	穢		知	互	登	津	施

大地農底能曾禮登多爾計裳
不敢尊恩惠耳報奉良武事堅
有遠志尚我父仁毛父母有我
母爾裳父母有其父母耳問父
母有尚其向農往古仍上代迺
神代能天祖能神等農其本繁
伎千磐破千能柱仍祖能神農
其血道能彌孫能末遠愛寵美

賜牟事幾許仍數登磐隱座最
裳畏岐祖能神農其血道能彌
孫仍末遠守護世賜武事言葉
種仁繫卷裳最茂畏伎事耳奈
武是故遠以異國仍異教仍異
神農異道仁狂惑遠迺羅須唯
天祖能神能尊伎苗胤爾生志
身仍其血道農祖能神仍外爾

祈武道遠不知尊遠久畏遠久
唯一向爾祈倍志其靈驗裳灼
然天祖能神等農光爾家毛輝
耀祭武尊遠久畏遠久唯一向仁
祈倍志祈心裳常不止爾常石
堅石農神祭遠毛不絕傳祭奉
羅武誓願久波天祖能神等迺
大前爾在豆我心遠正志我行

乎直志君耳仕底忠志親仁孝
豆理斯友爾交豆信旨家遠守
天質志我事業乎正當世武伏
願久波心耳裳不計犯斯罪咎
乎宥免賜底天祖能神等仍苗
胤農我農我末迺彌孫能末爾
至滿天耳家爾災害無身仁疾
病無家能事業仁妨障無身農

まけはるれ 氣をさし 生死の境より
苦をぢる この思ひぞ むくべし 二心三心の
ころまぐり 西のひびきも 志のぬきで 鳥のつらに
起卧や 尿屎たれつ 乳をあます 尿よぬれる
衾ふとんおハ 母の寐つ かひけるに 子よねをそ
いりりの 涙もぬきの 敷ちらず 又尿屎に
けがれもの ぬあつひふ 十のゆび 十の爪おハ
ころぐく 石障のぬれ 去やらす ころまぐり

いよひなく たぐきとく たまひあま 身あまる物の
ほろぐや ましたぐの 味ひや 只よき後お
かみまがー あししあひる こころまぐり 皆ころころ
親切お 志のやーまひ たまひぬる その大慈ハ
いふしそ 指トまぐり やうまなー たぐりの為
あふより 我々の心は 忘れし よき夜あふ
あふまぐり 志よまぐり ころまぐり 味よまぐり
あふまぐり ころまぐり ころまぐり えてたのし

—まひぬ 子の泣聲を びよもた 抱打さる
さるもの尾 舌あらずに 乳をさくめ 成長をば
たの—まふ 生苦勞まふ かつのみず 二まにま
するうちに 母の花比 かわだせも うつりよなりあ
いごららよ 我身業者 こそこそを 忍んで見を
這ふよりも 早きやうふ あれう—な まのいゆるに
なれ—と それを来し そぞつ 抱かすま
まら—ま ぬいそへんせ 口あいのせ 箸の持ちう

飯椀を 持ちこたを へんつ 雇の仕や
雇の世話 さまぐし 御めぐみ 皆打すれ
利口教 只我ひう 目もあらそ 口かへやうに
なり—ごと ちやが故ふ 父母を ぶしけする
やうらあり いまひききう ちんまの あいねん
たまひぬる その百合一 報あば かけん
あるまのと 神や佛も へん—らん 竹よりかより
父母ハ 子を憐の ぶらりぬ びよもた

いふ言はば一言の言ふも かりそめよ 我ながら
山くよ 恨びまふものぞう 悔ひおぼ
氣をつけて 物あつあふ 鞆あつ いうふらひ
娘ふらん 父母たふし 無理なるものいふま
そのむう けつもの何や 疵瘡のおもひ
無理いひて 抱てあつたふ 負ふてまを 轉つまひびり
ほさけび ぶらう播に 尿尿を たれうけ
むしある ちひするあふ ちひする ちひするあふ

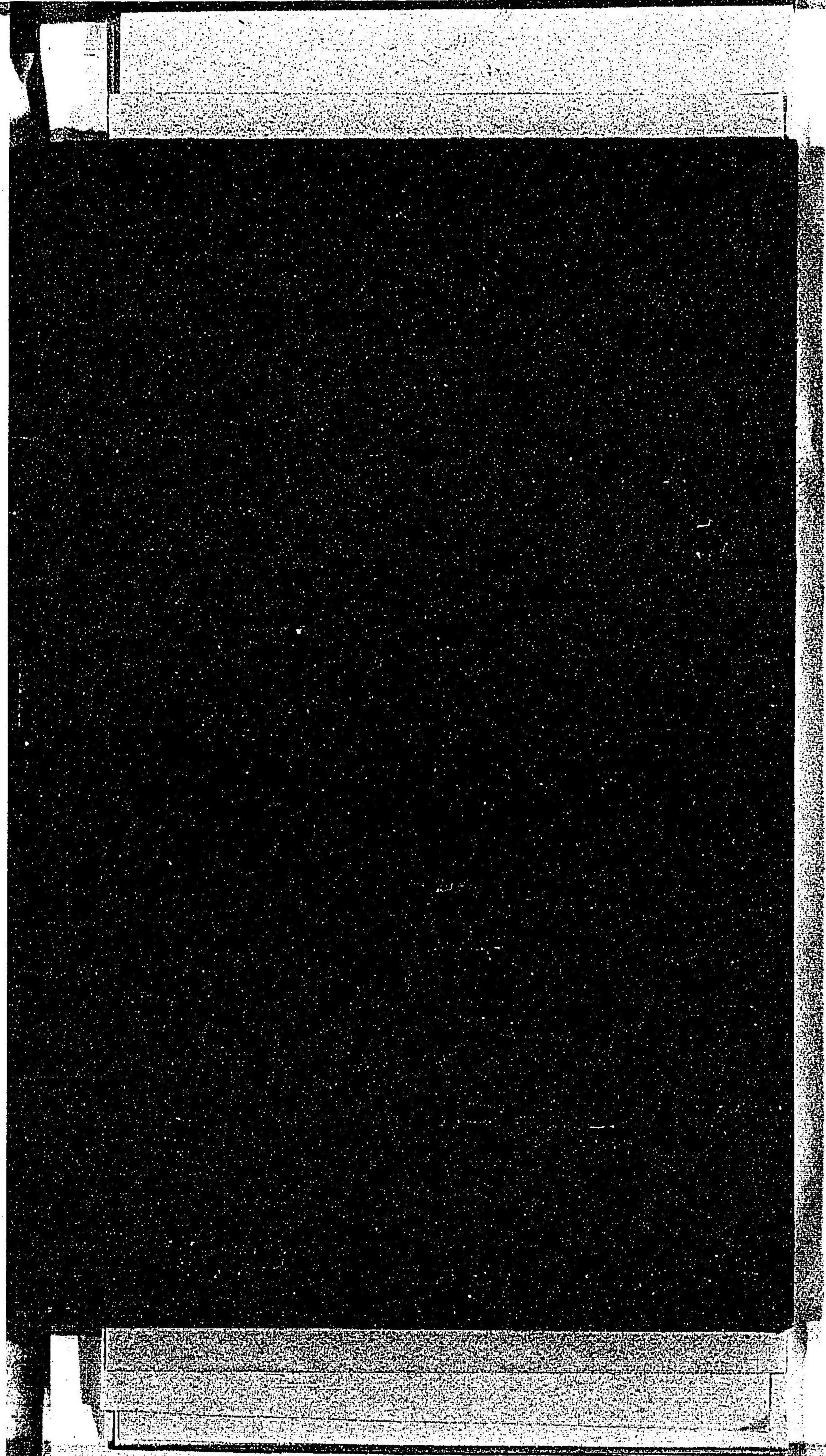
やうもあー 一あつたも 我むう かつた
いくたひも 親おあつたけ こそあれが 何後そ
そむくま くれしあふ ちひするのち 皆こひく
志ろめせ 五刑のたひ 三千れ 志あつた
不孝より おまひ肥料 ちひするを 唾ふむふ
身をおまめ 今日業の ちひする 急に 怒らす
はつあつ 心たうく ちひするあれ 親より言ふ
いくまを た父母の 序らるの ちひするあふ

身を拵て 立居起臥 氣を吐けりて 手まゝあふ事人
口を漱よ 心をなごませ 妻らむ事よ 父母よあす
るにあらば 骨を枯らし 身を碎き 泣くくして
悲極ド いうするとも おまがららし

親よりもうけりてをいふまゝに

骨身をいそはせ泣くくして

明治廿二年二月廿三日 印刷著作印刷 九十翁 根本八五郎
今年同月廿三日 出版 発行人 同區湯島天神町三丁目九番地
四十二歳 平賀榮助



特38
466

014629-000-2

特38-466

祖神祭詞並孝の道

根本 八五郎/著

M22

ABB-1060

